

第3回 蕨市立病院整備検討審議会 会議概要

【日 時】 令和6年3月7日（木）午後2時～午後3時

【会 場】 蕨市役所 4階 大会議室

【出席者】 (敬称略)

委 員 原澤茂(会長)、早船直彦(副会長)、古川歩、鈴木智、矢嶋聡子、永井秀三
植田富美子、佐藤政美、岡本和子、上野寿一、座光寺剛、塚本二三夫
坂本美香

事 務 局 田谷信行(市立病院事務局長)、小川淳治(同次長兼庶務課長)、
元井純(同庶務課管理係長)、小峰聖仁(同庶務課医事係長)、
佐藤則之(総務部政策課長)、伊藤雅純(市民生活部安全安心課主査)

【次 第】

1. 開 会
2. 会長あいさつ
3. 前回の会議概要について(確認)
4. 議 題
 - (1) 諮問第1号「蕨市立病院移転建替え方針案について」に対する答申(案)について
 - (2) その他
5. 閉 会

配布資料

資料1 蕨市立病院移転建替え方針案について(答申)(案)

■ 内容

【開会】

【会長あいさつ】

会長：皆さん、こんにちは。3回目の審議会は、市長への答申案についての議論が中心になる。1名の欠席であるがご審議のほどよろしく願います。

【前回の会議概要について（確認）】

事務局から第2回会議概要について説明し、了承された。

【議題】

- (1) 蕨市立病院移転建替え方針案について（答申）（案）
（資料1参照）

会長：諮問第1号、市立病院移転建替え方針案についてに対する答申案についてであるが、過去2回の審議会において、ほとんど全員の皆さんにご意見をいただき、第2回の会議概要でもそのことがご確認いただけると思う。市が示している移転新築案という方向性についてのご意見は概ね出揃っており、妥当ということになっていると思うが、改めて最後に確認をして、その後、答申案について議論したい。委員には順番にご意見を願います。

委員：市立病院の移転建替え方針については、皆様から概ね良いであろうとの話を伺っているので、私もそれでもいいと思う。答申案の別添の主な意見に、私が発言した、市民の声を広く丁寧に聞いてほしいということも載っているので、今後もしっかりと市民の意見を聞いて進めていただく分には、問題ないと思う。

委員：私も移転建替えの提案の通りで良いと思う。また、市民からの意見を聞くというのは、当然のことであり、審議会として改めてその声を確認するということで良いと思う。規模や機能の議論を先にすべきというご意見もあったが、市では、既に、蕨市立病院将来構想という形で議論されてきたと思うので、市民レベルの議論はこれからであるということを確認をさせていただき、結論としては、方針案の通り進めていただければと思う。

委員：私も同じように答申案の内容で問題ないと思う。今現在、千葉沖で群発地震が起きているが、やはり早く、耐震性のある病院に建替えた方が良いということを再確認した。今後は市民の利便性や、市民の意見を取り入れた立場でも発言していきたい。

委員：私もこの答申案で賛成である。前回は発言したが、スピード感を持って実行していく必要があると考えている。

委員：皆さんのご意見をいろいろと聞き、私もこの方針案で良いと思う。細かい内容は、また議論しながら、より良い病院が建てられるように意見を出していきたい。

委員：私もここで議論された内容に賛成である。今まで会議に参加してきて、病院の建替えは喜ばしいことだと思うので、もっと明るく会議できるようにしたい。市民にとって良いことだと思うので、事業費についても自信を持って説明していただければ、我々も安心して賛成できると思う。

委員：私は塚越に住んでいるので、もっと近いほうが良いという意見も聞いているが、やはり、より良い病院を早く造ることが優先されるのではないかと思うので賛成する。これから内容面でも、良いかたちで良い病院ができるように進めていただきたい。

委員：私は錦町に住んでいるので、方針案について大歓迎で嬉しく思っている。市立病院は、私たちの一番身近な病院なので、ぜひ皆により良い、手厚い病院となっただけの事を願っている。

委員：私も移転建替え案に賛成する。これからどのような病院にしていくか、皆で知恵を出し合い、少しでも早く安心安全な病院が建てられることを願う。

委員：私は第1回の会議で、移転先として線路沿いの貨物地跡地が良いという意見を出したが、皆さんのご意見、医師の先生方の話を聞いて、一日も早く造ることが重要であると思い、方針案に賛成する。答申案別添の内容も良いと思うので、今後は時間をかけてしっかりと、錦町に場所が決まったということを、市民に分かってもらえるように広報、周知してほしい。私たちは市民の声を聞きながら、利便性や、交通の便、病院をどうするか勉強しながら、より良い蕨市にふさわしい病院をつくっていききたいという思いで、非力ながら協力したい。

委員：建替えは、できるだけ早くした方がよいと思うし、むしろ、建った病院の機能や今後の運営状況を細かく分析するのに時間が少しかかると思うので、そうしたことをお願いしたい。

副会長：私もこの答申案に賛成である。今後のことになるが、病院建設と同時に、蕨市立病院を中心とした交通網の再構築をしていただき、今後、市役所、蕨市立病院、蕨駅が中心となるように進めていただきたい。入院機能と外来機能は、候補地に移すとして、外来機能を一部サテライトとして、現在の場所や、あるいは駅前の再開発に入れてしまうというのも、利便性や、収益面だけを考えるとあるかもしれない。公立病院なので、医師会としては反対するが、行政機能も駅前に来ると思うので、市民の利便性という意味では面白いことかなと

考えている。今後も、色々と話し合いをしていきたいと思うので、よろしく願います。

会長：私も会長として、この答申案について事務局とやり取りをしており、別添に記載した7点を含めて修正や意見をさせていただいたが、出席委員の皆さんそれぞれにも異議がないということを今確認した次第である。

次回、予定では5月と聞いているが、どういった機能の病院にするかという重要なことについて、私の個人的な考えは既にあるが、皆さんのご意見も聴いて、議論していただきたいと思う。前回の委員のお話にもあったように、東京医科大学とは包括連携協定を結んでおり、病院が新しくなればバックアップを十分するということであるので期待している。委員の中には、審議会が始まった時点では方針案に反対という方もいたが、先程は賛成と言っていたので安心している。以上で、この答申案及び別添について、皆さんのご賛同を得ることができたと思う。

会長が答申（案）を読み上げ、審議会としての答申とすることの確認をしたところ、委員から、答申書別添の体裁について修正を求める意見があり、別添部分を修正することになった。

会長が答申書に署名をした。

【答申】

蕨市長が入室。

会長から蕨市長に答申書が手渡された。

【市長あいさつ】

皆さん、こんにちは。蕨市長の頼高英雄でございます。ただいま、原澤会長から蕨市立病院移転建替方針案について、妥当であるとの答申をいただきました。1月17日の第1回の審議会で諮問をさせていただいて以来、約1ヶ月半という短い期間にもかかわらず、本日を含めて3回の審議会において、大変熱心にご審議の上で、答申をいただくことができ、改めまして、原澤会長はじめ、審議会委員の皆様のご尽力に市長として心から感謝を申し上げたいと思います。

蕨市ではこの間、市立病院に移転建替えの方針案について、審議会でのご審議と同時に、市内5地区で市民説明会を開催してまいりました。その説明会では、最初に私から市立病院の建替えについてのこの間の経過、考え方、今後の進め方などについて話をさせていただき、その後、参加された皆さんのご意見やご質問一つ一つについてお答えをさせていただきました。私はこの説明会などを通じて、改めて、市民の皆さんの様々な思いを直接伺い、受け止めることができ本当に良かったなと思いましたが、この審議を通じて市立病院の建替えに関する市民の皆さんの期待の大きさ、そして建替え方針についても、ご理解が広がってきたことも改めて実感をしたところです。この説明会で出されたご意見ご質問は、非常に多

岐に渡っておりましたが、その概要については、第2回の審議会で報告されたと聞いております。特に、今回は移転建替えということもあって、塚越地域などの皆さんからは、今よりも遠くなることから交通アクセスの改善を望む声もたくさんいただきました。私は市民の皆さんの命、健康を守る拠点である市立病院の建替えにあたっては、やはり誰もが利用しやすい、アクセスしやすい環境整備が非常に重要な課題だと感じたところでありまして、ぷらっとわらびのルート改善も含めて、しっかりと取り組んでいきたいと思っております。

そして、本日、原澤会長からいただいた答申には、この審議会での委員の皆様からのご意見も掲載していただいております。こうした委員の皆様、市民の皆さんのご意見、思いを受け止めながら、今後、しっかり病院建替えを進めていきたいと思っております。まず、本日の答申を受けて、蕨市としては、市立病院の移転建替えの方針案について、今年度中、3月末までに正式に決定してまいりたいと考えております。そして、今度の移転建替えを通じて、どんな病院を作るのか、市立病院の基本構想、基本計画について、引き続き審議会の皆様のご意見を伺いながら、令和6年度末までに策定をして、その後の設計、新病院建設と市立病院の建替えをしっかりと進めていきたいと考えております。

第1回の審議会でも申し上げましたが、市民の皆さんが安心して医療が受けられる、安心して住み続けられる、そんなまちづくりを進めていく上で、市立病院の建替え事業が蕨にとって、とても大事な事業であると考えており、また、元旦に発生した能登半島地震をみても、災害時に市民の命を守る拠点として、市立病院がしっかりその役割を果たしていく上で、建替え事業の意義、重要性というのは、ますます大きくなっていると感じております。ぜひ、これからも審議会の皆様と一緒に、市民の皆さんに愛される、そして頼りにされ、市民の皆さんが誇れる、そんな市立病院を実現していきたいと考えておりますので、お力添えを心からお願い申し上げます。市長としての挨拶とさせていただきます。また引き続き、どうぞよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

蕨市長退室

【議題】

(2) その他

事務局から、病院整備に関する今後の予定等について説明した。

(主な内容)

- ・市民アンケートの実施について
- ・第4回審議会について
- ・東京医科大学包括連携協定事業 市民健康公開講座について

会長：現在進めている新病院のあるべき姿の検討については、この審議会に反映されるのか。審議会で議論されるあるべき姿や、機能、病床数というのが内部検討とどうつながるのか。内部検討は、院長を含めた市立病院の関係者で行われると思うが、その内容はおそらく審議

会での議論にも影響すると思うので、次回の審議会には、病院の代表が院長含めて参加するという事によろしいか。

事務局長：重要な部分であるので、院長も出席したうえで病床数等についてきちんと考え方を説明させていただくのがいいと思っている。

会長：前回も発言したが、運営審議会で報告された上半期の実績等も含めて、あるべき姿と地域のニーズについて皆さんの意見を聞いた上で、現在の病院の実情とすり合わせをしながら進めていければと思う。

それからもう一点のアンケートについてだが、これは一般市民に対するアンケートとのことだが、患者満足度調査はこれまでやってこなかったのか。

事務局：利用者である患者に対するアンケートは毎年行っている。

会長：職員満足度調査はどうか。

事務局：職員に対してはやっていない。

会長：今回の建替えに合わせてやる予定はないか。

事務局：事務局長と看護部長で定期的に院内のラウンドをして、その中で意見収集は行っている。現時点で職員に対するアンケートを行うかは未定であるが、必要に応じて実施することも大切であると考えている。

会長：どの病院でも職員から愛される病院、職員の満足度が高い病院を目標としており、そうした環境でないと患者が集まらない。他の病院では、職員に選ばれる、あるいは、職員が満足するような病院で、働きがいもあることを主な眼目に挙げている。医師の働き方改革は、今年の4月からスタートするので、そうした職員の意見を吸い上げることが非常に重要であると思う。市民アンケートの実施は4月ということなので、職員に対してもできればやっていただいた方がいいと思う。これは審議会で求めるというよりも、私の意見である。それから、次回の審議会の予定は5月ということで、その間に内部検討やアンケートが揃って、診療科や病床数等についての考えが病院側から出るということによいのか。

事務局：その予定である。データ分析をする中で、どういう病院にすべきかという1つの方向性を示して、それについて議論していただく必要があり、それに見合う病床数も叩き台として出していかなければいけないという考えである。

委員：ゼロベースであるべき姿を構築するのではなく、内部検討で出た案について、この審議会で審議するということか。

事務局：やはり病院建設ということについて、ゼロベースから考えるのは難しいと思われるため、ある程度の叩き台を出す必要があると考えている。

会長：おそらく、現在の病院のデータや、患者の満足度調査、それから職員の満足度調査、市民アンケート等が示されると思われるので、それらを議題にして、病院長をはじめとした病院当事者も交えて審議を行うこととしたいが、よろしいか。

副会長：蕨市立病院の職員について、例えば、科別の医師数や、看護師数、事務の人数や、平均年齢などについても次回の会議に資料を作っていただきたい。

事務局：その点については、まとめてご提示させていただきたい。

委員：蕨市は、東京医科大学と包括連携協定を結んだが、現在の市立病院の医師は、東京医大の方が多いか。

事務局：東京医科大学からは、今回の包括連携協定以前の、蕨の町立病院の時から、長い間ご尽力いただいております。現時点でも例えば、内科、小児科に加えて、放射線科等の診療科以外の部分でも、医師を派遣していただいている。また、今後は、建替えのことも、ご相談させていただくということもあると思っている。

委員：医師の派遣や協力の仕方は、病院の機能によって変わってくる。130床は、決して大きい病院ではないので、個人的な意見としては、近隣の高度医療を行っている医療機関と連携ができるような体制を整えることが大事であると考えている。130床にした場合に高度急性期としてやっていくことは難しいと思うので、どのような年齢の方が多く来ているかという事も分析し、まず、健康管理とコモディージェズ（※一般的な病気、疾患）をしっかり診ることができて、重症になりそうな人は、連携した病院と協力して治療していけるような機能が一番ふさわしいと今の段階では思っている。

会長：病院があるべき機能ということについて、委員の発言は、非常に的を射てると思う。今ある130床は全て一般急性期であるが、蕨市立病院は要再検証対象となった424の公立・公的医療機関の中に含まれており、私が委員を務める地域構想調整会議でも、どのような機能にすべきかということ結構言われている。委員の発言にあった医療ニーズや、どのような患者がいるかということデータを出していただければいいと思う。

委員：診療科について、利用の状況によっては全ての科を残す必要はないと思う。利用者数などのデータについて、過去のデータも含めて出してもらえると非常に参考になる。最近の産科の状況や、検査機能、検査機器などについても教えてもらえればと思う。

会長：いろいろとご意見があったが、事務局どうか。

事務局：診療科の利用状況と人数は、データがあり、コロナの影響で減少したことを踏まえた数字を出すことができる。医療機器についても、使われ方などについての資料を出して説明できればと思う。

委員：急性期の病院になると思うが、蕨市は高齢者も多いので、療養型の病床数も少し検討の課題に加えていただきたい。

会長：急性期を継続する場合、130床に10数名のドクターでは無理である。先ほど、どのような機能にするかによって、医師の派遣内容が決まるという話があったが、療養型も必要となるとどっちつかずの病院になってしまうので難しいと考えるが、こうした議論は、次回以降とさせていただき、第3回目の審議会を終わりたいと思う。

【閉会】